

1 学習に興味をもち主体的に学び、知識と知恵を身に付けられるようにします。

- ★ 毎時間の学習のめあてを明確にし、振り返りをしっかりと行って次時に備えます。
- ★ 子どもたちがいろいろなことに興味をもつことができるよう、指導の工夫をします。
- ★ 一人一人が自分の思いや考えをもち、伝え合うことで学びを深めます

- ① 問題解決型の学習や好奇心や探究心を高める教育を日常化します。
 - ◆子どもたち自らが課題や問題を設定し解決するための方法を考え取り組みます。
 - ◆取り組みながら考えたことを、しっかりとまとめます。
 - ◆まとめた自分の考えを伝え合い、考えを深めたり広げたりします。
- ② 表現活動の機会を増やし、方法を工夫して豊かな表現力を身に付けられるようにします。
 - ◆話したり書いたりしたくなるような学習になるよう努めます。
 - ◆聞き手や読み手からの評価が得られるような発表の場を考えます。
 - ◆舞台発表だけでなくフロア発表（聞き手と同じ目線での発表）も取り入れ、表現の幅を広げます。
- ③ 学習環境を整え、落ち着いて学習に取り組んだり、興味をもって学習したいできるようにします。
 - ◆「戸三のよい子のきまり(3)学習について」「戸三小スタンダード」をしっかりと指導します。
 - ◆「はい～です。」や敬語、話型など、言語環境を整備します。
 - ◆教室内に既習事項を掲示し、いつでも振り返り、新しい学習に向かう時の参考にできるようにします。
- ④ 各教科において、ノート指導を徹底します。
 - ◆学習問題やめあて、自分や友達の考え、まとめや振り返りという学習の流れが分かるノートにします。
 - ◆以前に考えたことや学習したことを、資料集のようにして使うことのできるノートにします。
 - ◆ノートをもとに伝え合ったり話し合ったりさせます。
- ⑤ 朝学習を充実させ、基礎・基本の力を高めます。
 - ◆国語・算数のプリント、漢字、九九の暗唱など、繰り返しの必要なものに継続的に取り組みます。
 - ◆詩の朗読や群読、スピーチなど、繰り返し学習だけにならないよう、内容を見直し計画的に進めます。
- ⑥ 漢字の定着率を高めるため、漢字小テストと「戸三小・漢字検定」を行います。
 - ◆宿題で練習→小テスト→直し→検定・・・というサイクルで行います。
 - ◆自分で目標をもって漢字の力を高められるよう、2学期と3学期に漢字検定を行います。
- ⑦ 習熟度別少人数学習やチームティーチングで、できる限り一人一人に対応した指導をします。
 - ◆3～6年生の算数、2・3年生の国語で、習熟度別・課題別等の少人数指導を実施します。
 - ◆東京都ベーシックドリルに則り、単元終了時や学期末に、確かめのテストによるチェックを行います。
 - ◆1年生の国語、1・2年生の算数、3～6年生の理科等で、教員2人体制での授業をします。
- ⑧ 新1年生の4月に、スタートカリキュラムを実施します。
 - ◆1単位時間を2～3のユニットに分けて考えます。他学年とかかわるカリキュラムもあります。
 - ◆少しずつ、集中力をつけたり学校に慣れたりしていきます。
- ⑨ 放課後学習支援員による「放課後学習教室」を実施します。参加をすすめるお知らせが届きます。
 - ◆「ベーシックドリルを活用して子どもたちの力を伸ばします。火曜日の放課後を考えています。
- ⑩ 教職員による「放課後ゼミ」を実施します。発展的な学習に取り組みます。
 - ◆5・6年生の希望者を対象とします。金曜日の放課後を考えています。

2 強くしなやかな「心」を育み、新宿の未来を担う子どもを育てます。

- ★ 相手を思いやり、友達と切磋琢磨しながら最後までやりとげるよう励まします。
- ★ 将来に夢や希望をもち、自分を好きになることができるよう指導します。

- ① あいさつや、マナー・礼儀に注目させます。
 - ◆1日の始まりは気持ちの良いあいさつから始まります。登校班ごとのあいさつ運動を予定しています。
 - ◆「お先に。」「失礼します。」など、日本の文化を大切に、習慣にできるようにさせていきます。
 - ◆服のたたみ方や靴の揃え方、おはしや鉛筆の持ち方、食器の並べ方や道具の使い方を教えます。
- ② 読書活動を充実させ、豊かな心を育みます。
 - ◆毎週水曜日 8:25～8:40 朝読書を実施します。本の読み聞かせもあります。
 - ◆学期に1回ずつある読書週間の時に、全校朝会などを利用した取り組みを行っています。
 - ◆子どもが子どもに本を読んであげることも温かな心を育むこととなります。取り入れていきます。
- ③ なかよし班活動や登校班で下級生や上級生とのかかわりを学びます。
 - ◆思いやりの心を育み、上級生としての自覚をもたせます。
 - ◆全校遠足やなかよし班での給食で、自分のすることを自覚させ、温かな心を育てます。

- ④ **英語や総合で学んだことを国際交流の場で生かします。**
 - ◆3・4年生は20時間、5・6年生は35時間の英語を実施します。
 - ◆1・2年生でも英語活動を取り入れ、コミュニケーション能力を高めます。
 - ◆留学生との交流会などで、自国の文化について英語を使いながら伝え合う機会をつくりま
- ⑤ **道徳の授業の充実と、「生命」について考える授業を実施します。**
 - ◆道徳が特別の教科となるので、内容や指導方法を見直し、考えたことが実践できるようにします。
 - ◆「いのちの授業」など、自他の生命や自己の生き方、平和について考える機会を設けます。
- ⑥ **環境教育、ボランティア教育を推進します。**
 - ◆地域清掃活動をはじめ、子どもたちが町や人のために自分たちでできることを考えて取り組みま
 - ◆お年寄りや障害のある方と一緒に何ができるかを考え、継続的な交流ができるようにします。

③ **体力や運動能力を高めることで、積極性、高い集中力、責任感などを育みます。**

★「よく学びよく遊べ」の考えのもと、健康な体と精神を養います。

★人と比べるのではなく、自分の力を伸ばしたり健康な生活を目指したりします。

- ① **体育科の授業を見直し、体力や運動能力だけでなく、思考力や表現力も養います。**
 - ◆学習計画、学習カード、学習資料、用具や器具の工夫などを行います。
 - ◆思い切り体を動かし、できる喜びや上達する喜びが味わえるようにします。
 - ◆スポーツテストの結果などを生かした目標を立てて運動に取り組みます。必ず毎回振り返りをします。
- ② **休み時間や朝の時間を効果的に活用します。**
 - ◆中休みは校庭で遊びます。教職員も可能な限り一緒に遊びます。
 - ◆「投げ投げランド」「縄跳び旬間」「持久走旬間」「ギネス記録会」などを設定します。
- ③ **東京都の取組や専門家による指導を取り入れます。**
 - ◆コーディネーショントレーニング拠点校として、子どもたちの体幹をきたえることに努めます。
 - ◆「走り方教室」「野球教室」「着衣泳」などを行う予定です。
- ④ **健康教育、保健指導や食育の内容を充実させます。**
 - ◆毎月1回、歯みがき週間があります。歯の健康、「かむ」ことの大切さについて学ぶ機会を設けます。
 - ◆健康委員会による健康についての調査と研究成果の発表を予定しています。
 - ◆バランスのとれた食、食材や栄養、食の楽しさ・大切さ、食への感謝を学ぶ機会をつくりま

4 **地域・保護者と協働、関係機関等と連携して、人やものを大切に子どもを育てます。**

★大人も互いに関わり学び合い、協働する中で新たな発見をしていきましょう。

★かかわりが豊かなものになるよう、学校では皆様に広く発信することを心がけます。

- ① **保護者の方々と一緒に、子どもたちを育みます。**
 - ◆集団登校で安全を確保したいと考えています。下校時の見守りもお願いします。
 - ◆学校は毎日公開していますが、学校公開日が学期に1回以上あります。土曜公開日も設定しています。
 - ◆教育活動説明会・中間報告・最終報告会を行います。
 - ◆ゲストティーチャーの授業の時は、学校や学年から呼びかけます。一緒に学びましょう。
 - ◆「親子情報モラル教室」や「セーフティ教室」「道徳地区公開講座」などへの参加をお願いします。
 - ◆家庭学習についてのプリントを配布しています。ご家庭でも掲示し、声かけ等をしてください。
 - ◆子どもたちの、地域行事やPTA行事への参加呼びかけをします。教職員もできる限り参加します。
 - ◆hyper-QU や学力・体力テストの結果を報告します。面談等で子どもたちの様子を伝え合います。
- ② **地域のか、ボランティアの組織化をしていきます。**
 - ◆「地域協働学校」として、地域の方々とともに、子どもたちの未来を考えていきます。
 - ◆「地域協働学校」の組織を「学習支援」「安心・安全支援」「環境整備支援」の3つに分けて考えま
 - ◆スクールコーディネーターと連携して、子どもたちの体験活動を充実させます。
 - ◆夏季休業中に体験型ワークショップを行います。講師を地域の方々や企業にお願いします。
 - ◆1・2年生の英語活動の時間に、地域の方にボランティアでの指導をお願いしています。
- ③ **関係機関等との連携により、一人一人の子どもや保護者のニーズに合った教育情報等を提供します。**
 - ◆下落合図書館、戸塚地域センター、区の相談室、家庭支援センター等との連携をしていきます。
 - ◆スクールカウンセラーや相談室の相談員、医師等と連携していきます。
 - ◆近隣の子ども園・保育園との連携をします。
 - ◆中学校との連携教育を推進します。

★学校にいつでも気軽においでください。学校が皆様の集いの場になるとよいと考えています。